

日記

伊藤守

高野中加茂に月夜を記す

玄蕃殿

下野中加茂に月夜を記す

下野守殿

山崎中加茂に月夜を記す

山城守殿

伊藤中加茂に月夜を記す

伊藤守殿

伊藤中加茂に月夜を記す

伊藤守殿

二月廿八日

三九

弘化四年

丁未十五夜月

侍従正篤 堀田

ひさしにぬく夜とてあはれなる月よ

侍従利保 堀田

秋の月とてあはれなる月よ

正徳

あきらの月とてあはれなる月よ

播磨守安房 戸川

あきらの月とてあはれなる月よ

淡路守忠順 大久保

あきらの月とてあはれなる月よ

伊藤守氏 堀田

しの湯ふおのてる月の影をよほちりしあつる夜の夜

豊前守正良 歌え

昔の海舟はなれぬやの月乃かげのよやむ

都磨 新見

みかんの秋の空やとんもわたり月とをきや思ひくらん

杜海 海舟

しんがわかにあふの月をれととるよとくはよひこそれ

季文 少将

はつちのよもいひはあけはつちの月をうらたうらたう林の中

湖南 少将

かきぬきよきんをぬきしつ葉のやうら林の中をの月



